2024 年度　「福島に学ぶプロジェクト」　活動報告

タイトル	福島に学ぶプロジェクト活動　結果報告		
学校名	福島市立松陵中学校	教員名	校長　阿部　洋己
学年	１～３学年	教科	理科等・総合・行事・道徳
使用した教材、教科書等	各教科内において放射線教育・防災教育に関する教科書の内容を相互にリンクさせ、教科横断的に取り組んだ。		

1. 目的

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故から１４年目となり、震災直後の緊急時における放射線教育や防災教育の教育内容とは必然的に変更や修正すべきところが出てきていると捉えている。そこで、本校において昨年度を含め継続的に取り組んできた放射線教育及び防災教育をさらに推し進め、今後も活用できる資料集を作成し、来年度開校の義務教育学校における教育に確実に繋げたいと考えた。また、放射線教育と防災教育を通した生徒一人一人が自ら考え判断できる力を付けることを目的とした教育活動を広く発信することが、福島県内はもとより全国の学校教育の参考になるものと考え活動してきた。

2. 活動内容

次にあげる（1）～（5）の全てをリンクさせながら取り組んだ。

（1）体験学習

東日本大震災・原子災害伝承館（１学年）とコミュタン福島（２学年）での体験学習を実施した。また、１学年においては、富岡中学校との交流も行った。

【伝承館を見学し、富岡中学校と交流する生徒】

【コミュタン福島を見学する生徒】

（2）出前講座

福島県立医科大学教授の坪倉正治氏を招聘し、確かな知識を得るため出前講座を実施した。

（3）原子力災害想定の避難訓練

出前講座の内容を生かし、全校生と協力保護者で避難訓練を実施した。（県内ニュースで放映）

（4）防災理科や他教科との教科横断的な学習

避難訓練とリンクさせた防災理科の学習を行った。また、他教科との内容も相互にリンクさせ実践してきた。

（5）　特別非常勤講師による『ふくしま道徳教育資料集』を活用した特別の教科道徳の実践

【放射線出前講座】

【道徳の授業の様子】

【原子力災害想定避難訓練】

3. まとめ

多くの取り組みにより、生徒は放射線及び防災に対する科学的な知識を増やすことができたと考えられる、一方、それを発揮して何が必要か思考し、適切に判断する力や行動する力の育成については、さらに多くの機会と工夫が必要である。取り組みをまとめた資料集（作成中）を活用し、次年度の義務教育学校において、１年生から９年生の発達段階に合わせ、放射線についての正しい知識のもと、福島の今について自分の言葉で語り・発信し、将来的に事故の教訓を次の世代に引き継ぐことができる大人へと成長させたい。

4.　その他

本プロジェクトを円滑に進めるにあたり、多大なるご支援とご協力をいただきました、日本科学技術振興財団様に感謝申し上げます。

その他協力団体：福島県学術教育振興財団

5.　参考文献等

・福島県教育委員会「放射線に関する指導資料」
・　同　「放射線教育・防災教育指導資料（活用版）
・　同　「放射線教育・防災教育　実践事例集」
・　同　「ふくしま道徳教育資料集」
・文部科学省「放射線副読本」
・福島市教育委員会「防災・放射線教育指導資料」